2023年12月31日（日）主日朝礼拝説教

『光に向かって歩め』井上隆晶牧師
マタイ福音書2章1～12節、イザヤ60章1～7節

❶【東方の占星術の学者～祝福を受け継ぐ者～】
イエス様が生まれた時、天に特別な星が現れました。聖書は、星は神様がお造りになり配置されたのだと語ります。「**あなたの天を、あなたの指の業を私は仰ぎます。月も星もあなたが配置なさったもの。**」（詩編8：4）もともと宇宙や自然界は神が創造されたものなのでその中に神の秘密が隠されており、神様が自然を用いて人間に何かを伝えようとすることはあるのです。その不思議な星を見つけた占星術の学者たちは、救い主が生まれたことを知って遠く東方のペルシャ、アラビアから旅をしてやってきました。ペルシャは昔、イスラエルの国が捕囚となっていた国であり、メシアを待望する気運がその地方にも満ちていたようです。学者と訳されていますが原語は「**マギ**」です。彼らは哲学、薬学、自然科学、天文学の知識がある科学者であり、皆さんが知っているレオナルド・ダ・ビンチのような人だと思ってください。実はこの出来事は旧約聖書の中にも預言されています。

・**国々はあなたを照らす光に向かい、王たちは射し出でるその輝きに向かって歩む。…ミデイアンとエファの若いらくだが、あなたのもとに押し寄せる。シェバ（アラビアの地域）の人々は皆、黄金と乳香を携えてくる。…ケダルの羊の群れはすべて集められ、…**」（イザヤ60：3、6、7）

学者たちはエルサレムに来て「**ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。**」（2：2）と言いました。学者たちは、エルサレムの皆が新しい王の誕生を喜び、知っていると思ったからです。しかしヘロデ王もエルサレムの人々も不安を抱きました。ヘロデは新しい王が生まれることによって、王位を奪われるのではないかと恐れ、人々はヘロデがまた虐殺をするのではないかと恐れたのです。**新しい王、メシアの誕生を誰も知らず、誰も喜んでいないのは驚きです。人々はメシアを待つことに疲れ、自分に利益を与えてくれる目先の偽りの王に仕える生活が出来てしまったということでしょう。本物が現れたら偽物は消えなければなりませんが、なかなか王座を明け渡したり、自分たちの生活を変えることは難しい事なのです。**これは現代でも同じではないでしょうか。

●今年は今まで誤魔化して来たものが露わになる年であったとあるニュースで言っていました。旧統一協会の不正な献金活動、ジャニーズ事務所の性被害問題、自民党議員たちの裏金問題など、次々と悪が暴露されました。偽りの生活はいつまでも続かないのです。だから私たちは礼拝のたびに偽りを捨て、真理であるメシアを王として生きる練習をしなければならないのです。律法学者や祭司たちはメシアがベツレヘムに生まれることを知っていましたし、エルサレムの人たちは

メシアのすぐ側にいました。それなのに誰もイエス様に会いに行きませんでした。**聖書が与えられ、礼拝が与えられ、神の近くに置かれていたのに、彼らはそのすべての恵みを無駄にしました。知ることと従うことは別なのです。**神はすべての人を祝福したいと思い、実際そのように祝福を下されます。しかし天からの雨が窪んだ所にしか溜まらないように、祝福は謙虚な人、正直な人、従う勇気のある人の上に溜まるのであり、偽りの中に生きようとする人、勇気のない人からは祝福は流れ去ってしまうのです。天国もそうです。誰でも入れます。でもその国にふさわしい心を持った人だけが残り、高慢な人は追い出されるでしょう。「**誰でも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまで取り上げられる**」（マタイ 25：29）ということです。**祝福は誰にも与えられますが、それを自分のものにすることは難しいのです。**

❷【キリストに導く地上の星たち】

さて、ヘロデは祭司長たちや学者たちを集めて、メシアはどこに生まれることになっているかと問い、ユダヤのベツレヘムであることを知ります。ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼んで、星の現れた時期を確かめました。この後、ヘロデが学者たちに騙されたのを知って、ベツレヘム周辺一帯の 2 歳以下の男の子を一人残らず殺したのを見ると、2 年前に星は現れたようです。そしてヘロデは、自分も行って拝みたいので、その子のことを調べ、見つかったら知らせて欲しいと言って、彼らをベツレヘムへ送り出しました。占星術の学者たちは何も疑うことなく、王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が現れ、彼らに先立って進み、幼子イエス様のいる場所の上に止まりました。彼らはその星を見て喜びにあふれました。この星は不思議な星です。北から南に動き、止まることも出来ます。ある教父はこれは天使の輝きであると解釈をしています。

●私の人生もキリストに出会う旅でした。私は大学の時、真理を求めて旧統一協会に行きました。初め道を間違えましたが、妻によってそこを出るように導かれ、友人によって教会に導かれ、中島牧師によって牧師になるように導かれました。その他、多くの牧師や神父たちに導かれて今の私がいます。昔は星が学者たちを導きましたが、今私をイエス様の所に導いてくれるのは、教会であり聖書と聖霊であり、出会ったすべての人たちです。神様は私の周りに地上の星たちを置いて、私を導いてくださいました。

❸【賢者の贈り物＝神様からの贈り物であるイエス様】

「**家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。**」（2：11）とありますから、この時には既に、家畜小屋ではなく家にいたことが分かります。彼らはひれ伏してイエス様を拝み、宝の箱を開けて黄金、乳香、没薬を献げました。この三つの献げ物は、キリストは誰なのかを教えています。黄金は王に献げるものであり、乳香は祈りの時に献げるものであり、没薬は死者に献げるものです。つまりイエ

ス様は王であり、祭司であり、死ぬために来た方であることを教えています。
彼らは「**ヘロデのところに帰るな**」という夢のお告げに従い、ヘロデの言葉を無視し、別の道を通って自分たちの国に帰って行きました。面白いなあと思います。科学者なのに、最後は夢のお告げ、つまり「神の言葉」に従っているのです。科学的真理よりも宗教的真理を上に置いたという事でしょう。科学とは宗教に仕えるものであり、本当の科学は人を神に導くものなのだと思います。イエス様を拝んだ最初の者はユダヤ人ではなく、外国人だったというのは、やがて福音が全世界に広まることの予象となりました。

●アメリカの作家オー・ヘンリーが書いた『**賢者の贈り物**』という小説があります。これは占星術の学者たちがイエス様に贈り物をした話をベースに書かれています。「ニューヨークにある貧しい夫婦が住んでいました。収入は月に 20 ドル。クリスマスが間近なのに 1 ドル 87 セントしか残っていません。この少ないお金を元手に、何とかお互いにプレゼントを買えないものかと夫婦は考えていました。夫のジムは祖父から父へと受け継がれた金時計を持っていました。また妻のデラはとても美しい長い髪の毛を持っていました。しかしクリスマスプレゼントを買うお金を作るために、ジムは金時計を質屋へ、デラは美しい髪の毛を商人に売り渡してしまいます。手に入れたお金で、ジムはデラが欲しがっていた鼈甲（べっこう）の櫛を、デラはジムの金時計につけるプラチナの鎖を買いました。しかしプレゼントした時にはジムの時計はなく、デラには櫛で留めるだけの髪の毛がなかったので、お互いのプレゼントは無駄になってしまったのです。「ねえデラ。僕たちのクリスマスプレゼントは、しばらくの間、どこかにしまっておくことにしようよ」と、ジムは言います。二人はふさわしい物をプレゼントすることはできませんでしたが、それ以上のお互いの「愛と思いやり」を受け取るができたのです。二人は自分の最も大切な宝物二つを台無しにしてしまいました。愚かに見えるこの行き違いですが、贈り物をするあらゆる人々のなかで最も賢明だったのです。このふたりこそ、本当の賢者と言えるでしょう。

ジムとデラの贈り物は、彼らが一つしかもっていなかったものです。東方の学者たちの贈り物は交換ができますが、彼らの贈り物は交換が出来ません。そのたった一つのものを相手のために贈ったのです。それはクリスマスに独り子イエス様をこの世に送って下さった父なる神様の愛を現わしているものです。神様なのに、御子を犠牲にしなくても、もっと別な方法で救うことも出来たでしょう。しかし御子イエス様を犠牲にするという愚かな方法で、神は愛を示されました。神様からの愛のプレゼントであるイエス様の犠牲を無駄にしないように、しっかりと両手で受け取りたいと思います。